

はくぶつかんネット 第58号

平成29年1月～3月号
宜野湾市立博物館



常設展示室が生まれかわります!!

常設展示室リニューアル！

現在、宜野湾市立博物館の常設展示室はリニューアル工事のため入ることができません。利用者の皆さまにはご迷惑をおかけしています。しかし、そもそも何故リニューアルする事になったのでしょうか？

宜野湾市立博物館は、1999（平成11）年に開館しました。開館から17年、学問の世界ではさまざまな変化がありました。新発見や研究の進歩により、展示内容の修正が必要になりました。また、故障したり、老朽化した設備も問題になっていました。そのため常設展示室をリニューアルすることになりました。

利用者の皆さまに、新しくて楽しい学びの場を提供するため、現在一生懸命リニューアル中です！

リニューアルすると、どうなるの？再オープンはいつ？ そんなリニューアルの謎についてお答えします！

◆ リニューアルするとこんなところが変わります！ ◆

★その1 最新の情報に変わります！

展示内容が、最新の調査・研究を元にしたものになります。



★その2 設備が新しくなります！

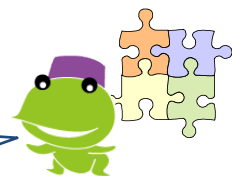
古かったものが新しいものになります。故障の多かった映像コーナーもきれいに！

★その3 コーナーやアイテムが増えるよ！

全コーナーで実物資料が充実、体験用のアイテムも増えます。

新コーナーもできるよ！

子供にも大人にも人気だった土器パズルも
修理したよ。また遊んでね！



◆ ひみつの工事風景 ◆

工事中の展示室が気になっていた
アナタに！

特別に展示室の工事風景を紹介
します。あのドアの向こう側で
何が行われていたのか…？！



工事用の囲いです。
このドアより先は関係者しか入れません



現役続行のジオラマは、保護しながら工事中



古い説明パネルや展示ケースをとりはずし、展示替えの準備をしています



展示を取りはずした入口も…



工事が進んで雰囲気が変わってきました



待機中

展示予定の資料の一部です。

工事が終わったら展示していきます

◆ 展示室の今 ◆

工事がほぼ終わった展示室の様子です。
ここからもう少し変身するぞ!!



今はオープンに向けて
最後の準備中!
はやく入りたいな〜。
わくわく♪



◆ もうすぐオープン! 博物館の新しい展示室 ◆



館長：千木良芳範

みんなが期待している博物館の展示室。今は、まさに工事の真っ最中。4月22日(予定)のオープンに向けて、毎日頑張っているよ。でも、オープンが待てないという人も多いことでしょう。そこで、ちょっとだけ新しい展示を紹介してみようかな。

新しい常設展の、大きな変化は、まず入口からだ。これまでの、少し怖い港川おじさんのお出迎えから、並松(ナンマチ)のトンネルになるんだ。木漏れ日の並木道をイメージした、音と光のエントランスは、みんなもきっと、気に入ってくれると思うな。そして展示が新しくなったことを、すぐに実感できるはず。入口を抜けて正面の展示室中央には、おなじみの宜野湾市のジオラマ模型がある。これも少し替えたんだけど、どこが替わったかは、オープンしてから自分で確かめてみてね。

それから、壁にならんだ展示も、ストーリーの再編成、イラスト、実物資料など、大幅な変化を体験することになるよ。琉球石灰岩を中心にした、宜野湾の大地の成り立ちから、台地に刻まれてきた先史時代の人びとの暮らし、祭りの登場する古琉球、宜野湾の誕生する近世から、戦争をはさんで近代・現代まで、私たちの暮らしと宜野湾の移り変わりが、わかりやすく紹介されていくんだ。でもね、みんなに人気の民家はそのままなんだ。そして展示を補助する映像も、新しい機器で楽しめるし、タブレットを使って、宜野湾の自然から民俗、文化を見ることができるようになるよ。

博物館の新しい常設展示は、これまでよりも、より宜野湾らしさを出し、よりみんなに近づいた展示になっていると思います。みんなの前にお目見えするのも、もうすぐです。わくわく、ドキドキで楽しみにしていて下さい。カミング・スーン!!



リニューアルオープンは4月22日の予定です。お楽しみに!

市史だより がちまやあ Gači-majaa

宜野湾市内には豊かな商店街が数多くありますが、中でも道幅が広く、戦後個性豊かな店が立ち並んだ国道58号(旧軍用道路1号線)についてとりあげます。

希望に満ちた商店街

軍用道路1号線は、戦前までの県道をもとに米軍によって整備されました。戦後、1946(昭和21)年郷里への居住が許可され、伊佐・大山には1947(昭和22)年以降に地域に人々がもどってきました。戦後復興が進み住民の生活も一段落し、1950年代になると経済もやや活気づいてきました。

軍用道路1号線の通りは、中部の中ではいち早く商店街として栄えました。商社・家具店・自動車販売・電化製品店・テーラー・食堂・美容室など多くの専門店がひしめきあっていました。

道路が2車線だった頃は道幅が10メートルあり、買い物客は店の目の前に車を横付けして買い物をしていました。買い物客は遠くから訪れる方も多く、車がどこまでも並んで停まっていた。昭和40年代は軍人相手の商売がほとんどでしたが、昭和50年代からは沖縄県民もお客として来店するようになり、県外からの観光客も好んで旧軍用道路1号線を訪れていました。

専門店も多く、外国のような雰囲気だと観光客に人気の通りだったんだよ。

※写真の番号は地図上の番号と同じです

宜野湾警察署

那覇

米軍施政下で食文化の洋風化が進み、個性豊かな専門店が続々とオープンしました。



①2017年2月の58号



①1966年頃の大山1号線

1960年代は、道幅が10mもある道路はそう多くありません。那覇と中北部を結ぶ主幹道路として重要な役割を果たしていました。



②大山電波堂 写真提供：大山電波堂



③ピザハウス
アメリカンスタイルのインターナショナルレストランとして大賑わいでした。

大山小学校



⑤中国家具 写真提供：中国家具
お客様は車を店に横付けして買い物をしていました。家具は台湾から仕入れていました。



④ジミー 写真提供：ジミー

個性豊かな専門店街

58号のうち伊佐三叉路から大謝名交差点あたりまでは、別名「家具通り」「オーディオ通り」と呼ばれていました。多い時は家具店だけで20軒を超え、家庭電化・音響製品店だけで10軒を超えました。特に軍人・軍属のお客様が多く、中国家具とオーディオ機器は人気があり、飛ぶように売れたそうです。他にも、洋服を仕立てるテーラーの店が立ち並び、軍人・軍属の方が帰国前に大量に注文したので、店は大繁盛していました。



⑥M.F.エレクトロニクス 1969年頃

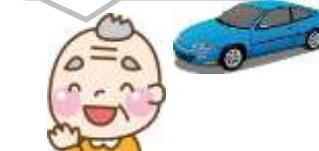


⑧ガキヤラジオ電気商会 1969年頃



⑦アレクサンダー洋裁店 1969年
スリーイーグル洋服店

当時、服を仕立てるのに基地内へお迎えに行き、店内で寸法など計り、終わったら基地内へ送り届けたものだよ。



パイプラインから基地にかけて外人住宅が多く、子ども達は基地内のスクールに通っていたけど帰ってくると、バスケットをしたりしてよく一緒に遊んでいたよ。国際結婚している方も多く、子ども達は英語・日本語・方言を話せる子もいて、異文化交流の環境が自然とできあがっていったんだよ。



道路改修工事後、車線が2車線から3車線になり、店舗の前は駐車禁止になりました。そのため徐々にお客様の足が遠のき、駐車場を確保できなかった店舗は店を閉めていったそうです。以前と形は変わりつつありますが、復帰後、豊かさの象徴である家具やオーディオ製品を求めて軍人・沖縄県民・観光客が訪れていた事が分かりました。今回「がちまやあ」作成にあたり、店舗の皆様へお話を伺いました。ご協力していただいた皆様、お仕事の手を止めてお話を聞かせてくださり、誠にありがとうございました。



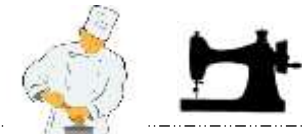
1\$360円の時代、外国人の購買力はすごかったのよ。中国家具や、仕立ての洋服がアメリカ本国で買うより、沖縄で買う方が安い時代だったの。



香港・台湾人は3つの刀を持っているのよ。料理・散髪・テーラー。だからどの国に行っても食べていけるよ。



中華料理・中国家具・テーラーなどで台湾出身や香港出身の方々の店が多いのも、この通りの特徴でした。軍人・軍属相手の商売が盛んだった1960～1970年代は、英語の話せる商売人が成功していったのです。



第17期わらば～体験じゅく

「わらば～体験じゅく」とは、市内在住の小学5、6年生の30名を対象に宜野湾の歴史や自然、文化を体験し、学んでもらう事を目的とした体験教室です。ここでは6月から始まり、計9回の様々な体験の様子をご紹介します！

<6月> 講師：博物館職員



開校式・博物館見学・昔の道具体験

開校式では、わらば～達の自己紹介をした後に、博物館内の探検や収蔵庫の見学、昔の道具体験を行いました。

<7月> 講師：比嘉和行先生(わにや耕房代表)



漆喰シーサー作り

瓦の欠片と沖縄の伝統的な接着剤の漆喰を組み合わせて、一人ひとり形の違ったオリジナルシーサーを作りました。

<8月> 講師：石川達義先生(大山田イモ農家)



田イモの値付けに挑戦！

宜野湾市の特産物である大山の田イモの値付け体験と、周辺の自然観察を行いました。田イモの特徴を学びました。

<9月> 講師：博物館職員



シーサーあれこれ

宜野湾市の市指定文化財、「喜友名の石獅子群」を巡りました。悪天候でしたが、みんなで巡ることができ、地域の文化財を学びました。

<10月> 講師：宮城邦治先生・喜屋武盛信先生



ウシとふれ合おう

中城の牛舎で、エサあげやフン清掃、ブラッシングなどのウシの世話を体験し、闘牛の練習風景などを見学しました。

<11月> 講師：伊波常憲先生



焼き物づくり

素焼きのコップづくりに挑戦しました。焼き物について学びながら、オリジナルのコップを作りました。

<12月> 講師：博物館職員



昔のおもちゃづくり

竹とんぼ作りに挑戦しました。先生達につくり方を教わりながら、物づくりの楽しさと奥深さも学びました。最後は竹とんぼを、皆で飛ばして遊びました。

<1月> 講師：宮城徳彦先生(大山田イモ農家)



田イモの収穫に挑戦！

8月の「田イモの値付け」と関連して、田イモの収穫体験を行いました。自分の手で田イモを収穫できました。地域の特産物と農家の仕事について学びました。

<2月> 講師：博物館職員



森川公園探検、閉校式

森川公園を探検し、身近な自然と触れ合いながら、観察をしました。その後の閉校式では、一人ひとりに修了証が授与されました。最後はみんなでハイチーズ！



社会科見学の様子



今年度は常設展示室のリニューアル整備もあって、利用者の皆さまにはご迷惑をおかけしていますが、市内外の小学校から社会科見学にお越しいただき、誠にありがとうございました。今年度は16校1752人の生徒が訪れ、昔と今の暮らしのうつり変わりについて学びました。その様子をご紹介しますと思います。



★学校の社会科見学の際には展示室の解説に加えて、博物館職員の指導もと、「昔の道具」を使用した体験学習も行っています。



出前講座の様子



★出前講座とは、宜野湾市内の学校のみ対象で、博物館への移動手段の確保が出来ない場合、博物館職員が学校の方に向いて講座を実施しています。



学校の社会見学や出前講座の場合は、打合せが必要となりますので、1ヵ月前までにはお問い合わせ下さいますよう、よろしくお願い致します。



■ ぎのわんのサングウチャー(三月遊び)

平成24年度から実施してきたサングウチャー調査、いよいよ報告書を発刊します！ご協力いただいた皆様には度々お世話になり、誠にありがとうございました。

サングウチャーは、古くから旧暦3月3日に行われていた女性中心の行事です。本報告書では、市内各地域の先輩方からお話を伺うことで判明した、かつての行事の様子を紹介します(皆さんの楽しい思い出も掲載！)。また、現在もサングウチャーを継承する宜野湾区・我如古区については、近年の行事の様子を収録したDVDを付属します。

3月末の発刊です！お楽しみに♪



我如古スンサーミー



宜野湾サングウチャー

■ 歴史公文書等整理・活用事業

平成24年度から継続して、歴史公文書の目録化・データベース入力(文書の名称・内容・劣化状態の記録)を進めています。今後公開することを予定しており「戦後の宜野湾市のあゆみ」をより多くの方へ、広く活用していただけるよう取り組んでいます。



歴史公文書ってなに？



公文書とは、国や県、市町村などの行政機関で作られた公文書のこと



目録を作り終え、マイクロ化・CD化の作業の終わった歴史公文書は、紙の酸化を防ぐために一つ一つ丁寧にうす用紙で包みます。さらに、劣化を防ぐために「もんじょ箱」に入れて湿度管理のされた部屋に保管されます。

特別収蔵庫へ保管された文書

宜野湾市立博物館

- 入館料：無料
- 開館時間：9～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日：毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
祝日(慰霊の日、文化の日は除く)

※火曜日と祝日が重なったときは、翌日の水曜日にも休館です。

その他、臨時休館になる場合もございます。

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：(098) 870-9317 FAX：(098) 870-9316



28年度も多くの方々に当博物館をご利用いただき、ありがとうございました。
29年度も宜野湾市立博物館を、よろしくお願いいたします。